



マスク生活はいつまで続くのでしょうか

お施主さんがいらっしゃらない工事現場ではマスクをしない職人さんも、在宅されているときはマスクが必須。マスクを忘れると現場にも入れないので、エチケットのようになっています。まだ、新人君の歓迎会もできていません。こんな事がいつまで続くのでしょうか。

荒木 勇

削ろう会 in アラクキ工務店

今年は、亀岡で開催予定だった「削ろう会全国大会」に参加する予定だったのですが、あいにくコロナ禍で中止。

どうしようかといういろいろ悩んだ結果、会社独自に削ろう会を開催する事になりました。

コロナ禍が一段落し、だいぶ忙しくなってきたのですが、わざわざ一日かけて、準備～予選～決勝まで実施しました。

予選では幅 55mm の地桧材を使い、長さ 1500mm 以上を削って、三点で鉋屑の厚みを計測します。

最初は20 μ (ミクロン)位でしたが、時間が経つにつれ10 μ の攻防に。時の経つのを忘れて、一日削っていました。

今回の行事で、気づいた点が2点あります。

1つは、『先輩と後輩の間でいろいろと教えあう事の大切さ』。普段、現場では仕事が忙しくてなかなか聞けない事も、一日かけて代わりばんこに削っていると、教えてもらえます。

もう一つは、『会社で一つの事に取り組む事の一体感』です。今回は、ささやかな賞品の購入も大工さんにお任せしました。また、現場監督も出番はないのですが、測定を手伝ったりして一緒に盛り上げてくれました。

これで、ちょっと心の距離も近づいた気がします。

今回の行事は当社のウェブサイトと、YouTubeに掲載しましたので、ご興味のある方はご覧ください。

荒木 勇



削ろう会ページ



YouTube

住まいについていろいろな話 第27回 「建築工事の縁起物」

建築工事には工事開始から工事完了までの間に、昔からの儀式や飾物がいくつもあります。科学的に根拠があるものもありますが、ほとんどがそうではなく、昔からの言い伝えを守って行います。神様に感謝し安全を祈願して念じるというのもいい習慣だと思います。

▶ **地鎮祭** 工事前に土地を守る神様に工事の安全と成功を願う式です。土地の四方に青竹を建ててしめ縄を張り、これを式場とし、その中で執り行います。多くは神式ですが仏式やキリスト教式も有ります。

▶ **上棟式** 柱・棟・梁などの骨組みが完成した時に行うのが上棟式で、建前ともいいます。お多福と呼ばれる飾り物を祭り、棟が上がったことの御報告とこれからの工事の安全と完成を祈願します。祝い事なので、昔はその場で料理とお酒をいただき、にぎやかに過ごしたのですが、近年車での移動が多数なので、各自持ち帰りにしていただき、帰ってから頂くことにしています。地方によりお餅やお菓子やくじ引き！を撒いたりしていたところもあるようです。

▶ **竣工式** 住宅が完成した際に無事に工事が完了したことを神様に奉告し、新しい暮らしの場となる住まいを清め、そこに住まう家族が健康で永く繁栄することを願う儀式のことを言います。工事関係者やご近所の方々を完成した住まいに招いて祝ったりしたのですが、なかなかそこまでされる方も少なくなりました。最近では、お引渡しのご挨拶を行い完成とすることが多いです。

▶ **鬼瓦** 棟瓦の端部に取り付ける瓦に鬼の表情を模したものを付けて、家の安全を守ることを目的としたものです。恐ろしい鬼の顔で邪気や悪鬼を追い払うと言われていて、当初は怖ければ怖いほど良いとされたのですが、後世では鬼以外のデザインでも鬼瓦というようになりました。社寺では鬼の面よりも経ノ巻というデザインの瓦が一般的です。

▶ **鐘馗さん** 玄関の下屋根につけるもので、小さな鐘馗さんの形を作って焼いたものです。これは玄関から入ってくる邪気や悪霊をこれも退治するためと言われています。

さてそれでは鬼瓦か鐘馗さんかどちらが強いのでしょうか。

昔、すごい鬼瓦を付けて屋根を作った人がおり、邪気や悪霊がその鬼瓦に弾き飛ばされて、向かいの家の玄関に飛び込んでしまい、家の方が病気になってしまいました。これではいけないということで玄関の上に鐘馗さんをおき、弾き飛ばされて入りそうになったそれらの悪鬼を鐘馗さんが退治して病気が快癒したという言い伝えがあります。弾き飛ばした鬼瓦が強いのか、退治した鐘馗が強いのか、これは引き分けとさせていただきます。



鐘馗さん撮影中

アラキ工務店でもこの10月に鐘馗さんのことをテーマにしたNHKテレビの撮影があり、ある新築の家での設置風景と、お施主さんのインタビューがありました。NHK国際放送の「コア京都」という番組で、12月2日にオンエアされました。京都のいろいろな伝統文化の紹介の番組です。NHKオンデマンドで見られるようです。興味があるかたはご覧になってください。

村上 幸男



お多福さん



経ノ巻

構造改修

今回ご紹介する工事は、3軒長屋の構造改修です。各戸共に長い間空き家となっていて、全体的にかなり傷んでおりました。特に地盤沈下や柱の腐朽等の影響により建物が全体的に東側へ傾き、3軒間口の幅の広さによってなんとか建っているという状態でした。

【写真①】 現況の表構えです。建物の傾きが酷くならないよう、あらかじめ仮筋交いなどで簡易な補強がなされていました。今回の工事では構造改修までが工事範囲となりますので、各戸内の間仕切壁を増設する(短辺方向に壁を増設することが有効です)ことができません。柱や梁の建ち(垂直)とレベル(水平)を元に戻せたとしても、それを留めておく壁量が不足しているため、工事が完了しても仮筋かいを外すことができないのですが、どこまで元に戻すことができるのか腕の見せどころです。



【写真②、③】 解体工事が終わったら、すぐさま建物のレベル調整と建ち直しに掛かります。写真にあるような油圧ジャッキとパイプサポートを使い作業を行います。既存の傾きは1階床から2階床の高さを約 10 cm 東へ傾いていたので、2階床の梁を西側へ押して調整します【写真②】。2階の床レベルは全体で約 10 cm の不陸があったので、3軒で60本を超える柱の高さを調整します【写真③】。全体のバランスをみて上げる柱、下げる柱を見極めながら作業を進めます。

【写真④】 これまでの作業で必要不可欠な道具がもう一つあります。この写真にあるブレースです。鉄骨造に使うブレースを改良したのですが、中央にターンバックルが付いてこれをグルグルと回転させるとブレースの長さが伸縮し、両端部に固定した柱や梁を押ししたり引いたりすることができます。一気に回すと建物に負担が掛かるので、大きく動かす場合は少しずつ何日かに分けて回します。



この後、建物が元に戻らないよう固定した状態で基礎工事に掛かるのですが、続きはまたの機会にご覧頂こうと思います。なかなか一般の工事では見ることのできない町家の建ち直しとジャッキUPについてご紹介させて頂きました。

これらの難易度の高い作業を普通にやって退ける大工さんの技術力には感服させられます。

米沢 和也

コンクリートブロック塀

現在、新築工事中の敷地の隣地境界には、既存のコンクリートブロック塀があります。

住宅を新築する際、隣地との境界に高さ1.2mを超える既存のコンクリートブロック塀がある場合、建築基準法施行令第62条の8に定められる条件を満たさなければなりません。

具体的には高さ2.2m以下とすること、厚さ10cm(2mを超える場合は15cm)以上とすること、縦横に鉄筋を入れること、長さ3.4m以下ごとに控え壁を設けること、などの条件を満たす必要があります。

まず、現状の確認をします。

敷地は北東の角地に位置し、当該コンクリートブロック塀は、敷地の西側と南側の隣地境界にあります。高さは、低い所で1.4m、高い所で1.8m。南側の2カ所に控え壁がありますが、間隔は3.4m以上離れています。

次に、塀の所有者の確認です。

西側は、塀の中心に隣地境界線があり、全て隣家との共有、南側は、四分の三ほどが敷地内で、残りが隣家との共有です。塀に手を加える場合、両方の隣家との協議が必要になることがわかりました。



既存のブロック塀

お施主さんから、それぞれのお隣にご相談いただいた結果、西側については、高さは変えずに、長さ3.4m以下ごとに控え壁を新設。南側については、ブロックの高さを2段(40cm)カットした上で、それでも1.2mを超える部分については、控えを増設することになりました。



高さを下げたブロック塀

共有の塀の場合、隣家との話し合いがこじれるケースもあると聞きますが、今回は、両側ともスムーズに運び、なかでも南側のお隣には、塀をカットするために敷地内に立ち入らせていただくこともご快諾いただき、本当にありがたかったです。

2018年の大阪北部地震によるコンクリートブロック塀の倒壊事故などもあり、既存ブロック塀の取扱いについては、年々厳しくなっていると聞きます。新しく土地を購入する際は、コンクリートブロック塀の有無や状態についても、確認されると良いかもしれません。

長崎 道

「京町家再生セミナー」の講師を担当

先日、京都市景観まちづくり大学の京町家再生セミナーにて、約2時間の講演を行う機会に恵まれた。『これからの季節の京町家のお手入れ～痛みを早期発見、早期対応～』と題し、時間が余ることを想定しながら資料を準備し、いざ本番を迎えてみると、時間が足りずに最後は駆け足になる始末。今回の経験が次回に生きるよう反省し資料を見直す。ご参加いただきました方々には、つたない話しにお



付き合い頂きありがとうございます御座いました。自身にとっても、とてもよい経験になりました。

今回は特に注意すべき点を5つ挙げて説明しました。

- ①床下: 普段目に付きにくい基礎廻りを中心に点検。
- ②外壁: 木部の痛み、漆喰壁の状態、雨樋など。
- ③屋根廻り: 瓦の状態、屋根の陥没、軒裏など。
- ④庭廻り: 庭木の手入れ、排水状況など。
- ⑤内部: 雨漏り跡、土間の状態など

どれも、まずは目視が肝心です。全ての不具合は『しるし』で前兆を察知する事ができます。『天井板のしみ』や『建具の不具合』、『床のきしみ』などの『しるし』に注意するのが大切だと解説しました。

講演にあたり、日本の気候を振り返ってみると、豊かな雨をもたらす温帯モンスーン気候に属し、大雨・台風などの自然現象が多いのに気づきます。国土においては急峻な山地が国土の大部分を占め、土砂災害や河川の氾濫を繰り返し、わずかな平地に寄せ合って暮らしているのです。

我々の置かれている環境を考えると、建物への日頃の点検がいかに大切かを改めて思い起こしました。

特に、伝統建築においてはその主要材料が自然素材であるために『水』や『湿気』を遠ざけ、材料が永らえられる環境を整える工夫や手入れが特に重要だと感じています。

小野 敏明



横ストライプのロールスクリーンを紹介

2週間ぐらいで、流しの交換と、リビング和室のクロス張替・窓枠の塗装などをしました。その際に、工事前は普通のカーテンとレースであったものを、写真のようなロールスクリーンに交換しました。



リビング南の窓



リビング西の窓

ロールスクリーン普通は1枚ですが、前と後ろ2枚(2重)になっていて、重ねると採光でき、完全にずらすと光が遮れるようになっています。障子のような柔らかい光と、少しずつ加減しながら、そこそこ明るくも暗くもできます。軽やかですっきりしています。実はクロスも細かいよこしま模様です。

意外とよかったので、ご紹介しました。

荒木 智

住宅設備の配管

市内某所の現在着工中の現場から、職人さんの腕が光る一面が見られたのでご紹介します。

水道屋さんが排水配管の仕込みの工事を行う予定でした。

ですが、現場は路地奥で敷地には階段もあり、機械を入れての工事が困難かと思っていました。通常よりも深いところに既存の配管がある為、手掘りになると大変です…。ところが当日、水道屋さんは枕木と歩み板を用いて機械を無事搬入に成功させます！【写真①】危なげな場面もなくお見事でした！



写真①

ほっと一息。これで順調に工事が進むと思われました。しかし、掘削作業を始めてびっくり！接続桝の近くを給水管が通っています！【写真②】

長屋の現場で、両隣への給水管にもつながっています。通常の20mmよりも太い25mmの給水管ですので、傷をつけてしまえばあっという間に水浸しになります…もちろん修復の際は両隣の水も止めなければいけませんので、大変な迷惑が！細心の注意を払って掘削作業と桝の入替えを行います。ギリギリのところまで機械で掘り進め、細かい作業はやはり手作業で。不幸中の幸いか、既存の接続桝に付いているモルタルが少なかった為、研りの作業が簡単にできました。



無事入れ替えと埋め戻しに成功！【写真③】

しかも当初は階段のコンクリートが剥がれてしまい、補修が必要になるだろうと思っていましたが、そこも見事にクリア！傷つけることなく工事を完了して頂きました(^o^)/

残りの作業をどんどん進めていき、あっという間に工事が終わりました～予定どおりの日数で、その後の工程もスムーズにいきました。

この後、機械を下ろすのも大変でしたが、傾斜と車の角度を調整しながら無事に下ろし終えました！

口で言うのは簡単ですが、それを卒無くこなす高い技術を持った職人さんにはいつも助けられてばかりです！大工さんが身近にいて素晴らしい技術を持って工事を進めてもらっていますが、協力業者さんも負けなぐらいの技術を持っておられるのだと再認識しました。

今後とも皆さんの力をお借りして、一人でも多くのお客様に喜んで頂けるよう、日々努力していきます！！

大久保 朋彦

民家フォーラムにて

日本民家再生協会の表彰式に出席しました。

沢山の方に協力いただき、大量に応募させていただいたので、晴れて登壇♪これで、京町家だけでなく、民家の改修もお手伝いできることが増えていいなと願っています。



編集後記

いろいろな業種の方とお話をする、まだまだ大変な境遇に置かれている企業さんが沢山あります。

「疾風に勁草を知る」とも言います。強い風(コロナ)が吹いて本当に強い草がわかるという諺ですが、弱い草にも5分の魂があります。生活があります。皆がしっかりと商売できる環境に早く戻ってほしいと日々念じてやみません。

荒木 勇